

平成 29 年度

第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

平成 29 年度 第 1 回学校関係者評価委員会

日時：平成 29 年 10 月 13 日（金）20：05～20：55

場所：長崎医療技術専門学校 本館 1 階 会議室

1. 開会

- ・学校関係者評価委員会規定第 6 条に規定される出席者数を満たしているため、本会は成立する

2. 本校の特色と改善すべき点について

- ・学生の性質は年々幅が広がってきている。本校ではコミュニケーション学など早くから取り入れて対策をしている。教員も学生と日々全身全霊で向き合っているが、外部からの忌憚ない意見をお聞きしたい
- ・国家試験の合格率はどうか
 - 平均的に全国平均を上回っている。昨年、理学療法学科は非常に良かった
- ・国家試験の合格率や就職率等が教育判定である
 - 昨今は、合格率、卒業率を高校は重視していると理解している
- ・退学者は増えているのか
 - 増えてはいない
- ・学年で差はあるのか
 - 退学者は 1 年から 2 年が最も多く学力不足、2 年から 3 年では実習のストレス、2 年生から 3 年生では卒業試験に合格できないことが傾向としてある
 - 1 年生は学校の雰囲気や先生のサポートで踏みとどまることが多い
 - いかに気持ちがついていかない学生をサポートするかが大切である
- ・仮進級についてどう考えているのか
 - 進級者の中には進級しても学習意欲の沸かない学生もいる。仮進級制度は導入して 5 年目なのでもう少し経過を観察したい
- ・どちらにしても臨床実習があるので知識が無いと対応できない
- ・座学の成績が良くても、実習がうまくいかないこともある
- ・生きていくためのバイタリティは客観的に見えない、実習ではその要素も大切である
 - ストレス耐性のない学生が増えている
 - 入学時のハードルが下がっていることも要因ではないか
- ・非常勤の生理学の国家試験対策授業は学生からの評価が高い
 - 生理学の国家試験対策授業では、国家試験は答えが問題ではなく、どう考えるかが大切であることを伝えている
- ・国家試験の問題は、どの時期から目に触れるのか
 - 1 年の時から科目の中で小テストとして解かせ、将来の課題として意識させている。2 年生後期には実際の問題を解かせ成績として反映させている
 - 学生は、国家試験でどの程度解けるかを体感することで、現在の学習の進行状況と今後どの程度勉強しないといけないのかを知ることが出来るのではないか
 - 国家試験対策重視になり過ぎると出題傾向重視の学習になってしまい、本来の教育は成り立たない

→今年度は教科書を変え、疑問やひらめきを大事にする授業に変更した。自分に対して自己質問をさせるようにし、できない学生は、周囲と情報交換させ、アクティブラーニング的な方法で行ったところ、手ごたえがあった

・2 極化の傾向がある。文章が読めない学生が多い。目標を提示したが、その理解について専任教員がフォローを入れてくれた。専任教員は非常に頑張っていると実感している。また学生のことをよく知っていると感じる

・最近の実習前に臨床を体験したいという学生を受け入れているが、まず初めに、「他人のために」、「人を思う」ことについて話している。自己開示がうまくできない学生が多いので、教育と臨床が連携して学生の良いところを引き出せればと思う

・臨床と教育のリンクが重要。新人教育が常識的になり OJT に移行する形になりつつある。臨床実習でも臨床とリンクさせるような形として、昨年から CCS に一早く取り組んでいる

・自己研修する時間は増えたのか

→現在も自己研修制度は整っていない。指定規則改定の中の意見にも教員と臨床がリンクすべきという意見もある

・来年の入試はどうか

→全国的に厳しい状況で、本校も同様である

→ライセンスは充足すると行き詰るが、教育の質が保たれていれば学生は集まるのではないか

→教育の質の向上、良い実習施設を選定し、選ばれる学校を作ることが大切である

→在校生が本校を選んだ理由として、早くから実習に出してもらえるからと聞いた

→本校は本物の技術者を育てる学校だという評判を聞いたことがある

→本校は難しいという印象があるようだが、その印象が強すぎると敬遠される可能性もある

3. 総評

今回は4月。正式な指定規則が出ている時期で、それに沿った話ができると思われる

4. 閉会